

備前市事務事業評価表

事務事業名	定時制高等学校管理運営事業		コード	03-01-03-01
			担当課・係	教育総務課庶務係
			担当者	草加成章
事業実施期間	平成18年度		電話	0869-64-1802
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	未来を支える人材を育むまちづくり		
	小項目(施策)	高等学校		

事業について	
目的 (何のために)	働きながら学ぶ青少年等の高校教育を受ける機会を保障するため、地域や学校の実態、生徒や学校の特性を考慮し、教育課程を達成できるよう管理運営を行う。
対象 (誰・何を対象に)	備前市立片上高等学校生徒
内容	定時制高等学校の教育活動のために使用する消耗品、光熱水費、備品整備等の経常経費の支払、事業用の備品等の整備や建物・施設の修繕を行う。

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
管理運営校	1 校	1 校	
就学生徒数	87 人	88 人	
定員数	160 人	160 人	
管理運営費	8,080 千円	11,156 千円	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	8,080	国庫補助金等		直接事業費	11,156	国庫補助金等	
	人件費	10,395	受益者負担	958	人件費	10,430	受益者負担	1,010
	市債			市債				
合計	18,475	一般財源等	17,517	合計	21,586	一般財源等	20,576	
	0			合計	0	一般財源等	0	

必要人員	2.55 人	1.30 人	
結果指標名	就学生徒数	就学生徒数	
結果指標量	87	88	
単位	人	人	
対前年比	-	101.15%	0.00%
活動にかかるコスト	18,475,000 円	21,586,000 円	
単位当たりコスト	212,356 円	245,295 円	
結果指標名	給食関係人件費	給食関係人件費	
結果指標量	2	2	
単位	人	人	
対前年比	-	100.00%	0.00%
活動にかかるコスト	2,376,000 円	2,308,520 円	
単位当たりコスト	1,188,000 円	1,154,260 円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	市立高等学校管理運営費の節減と経営の効率化		
成果指標名	定員充足率	式又は説明	入学生徒数の増加を進めることで、経常経費の効率的な運用を図るため、定員に対する在校生の割合を指標とします。 在校生÷定員(160人)
	17年度	18年度	
成果指標量	54%	55%	
対前年比	-	101.85%	0.00%
到達目標値	60%	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等： 学校教育法第1条、2条、44条ほか	妥当性評価<A~E> D 課題認識
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	高校進学率の向上により、働きながら学ぶ生徒が減る一方で、全日制の中途退学者が増加しており、勤労青少年の教育機会の保障から学校になじめなかった青少年にも教育機会を与えるといったように、様々な志望動機を持った入学者が増えている。また、入学者の増加もその現象がみられ、その変化に対応した運営を検討する必要がある。あわせて、定員160人のうち在校生は、毎年定員の55%程度にとどまっております。定員の改正についても検討する必要があります。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> C 課題認識
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	授業料は、勤労学生を想定したものとされており、在校生の状況により検討が必要。また、給食の提供についても、利用者の動向を見極め、平成19年度から改善した。
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> D 課題認識
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	県東部では唯一の定時制高校であり、存在意義は大きく、効率的な運営を図るとともに、生徒の増加を図る必要がある。	

平成19年度状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明 定員の6割を確保できるよう学校の特色づくりに努める。また、経費節減を図り効率的な運営を図る。	
目標値	結果指標量	生徒数	結果指標量	給食関係人件費
	成果指標量	60%		

総合評価	効率的な運営を図るためには、生徒の増加が必要であるが、現在定員割れをしている現状から、定員の改定も検討する必要がある。入学生徒の変化を踏まえ、学校の特色を創作していく必要がある。	評価区分 <A~E> D
------	---	--------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	パン、牛乳の夜食の改善をさらに検討する。	平成20年度以降	残量の減につながる。
有効性	定員の55%の在校生となっている現状から、適正な定員の検討も必要。	平成20年度以降	備前緑陽高校から施設を借りている施設使用料の軽減につながる。